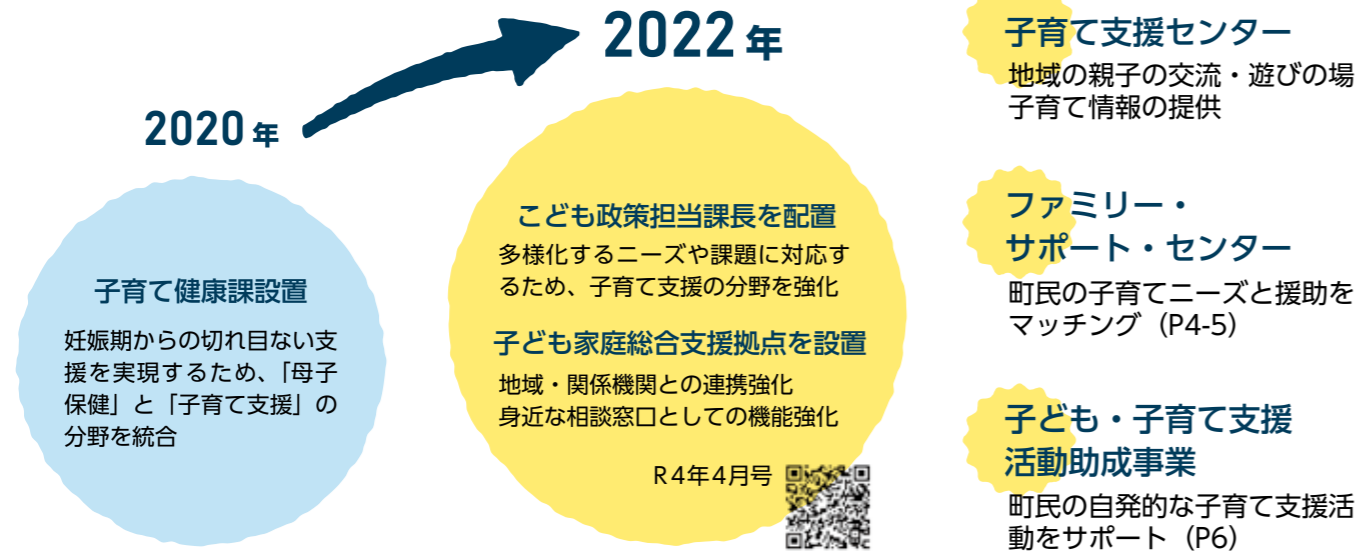


地域と町の子育て支援

地域の子ども・子育て世帯や子育て支援活動をサポートするための体制を整えています。



子育て健康課 こども政策担当課長 田中 美津子

悩みを抱えながら子育てと向き合っている家庭でも、同年代の子どもがいる保護者や子育ての先輩と話すだけで解決の糸口が見いだせることがあります。また、家族だけでは解決できない問題でも、地域の皆さんからの言葉かけなどをきっかけに、家庭内のヘルプサインが発せられることがあります。大切なのは、子どもや保護者をサポートす

る重層的なネットワークをつくり、地域の資源・人材を活かして「居場所（物理的・心理的）」を確保していくことだと思います。「開成町総合計画」の4つのまちづくりの視点のひとつ「人々のやさしさがあふれ、次世代を育むまち」を実現するため、行政や学校、支援関係機関、団体、そして地域の皆さんと連携しながら子育て支援の体制を整備していきたいと考えています。

地域が子どもを育てる

社会情勢とともにめまぐるしく変わる子どもをめぐる環境。子どもたちの健やかな成長とその未来のため、地域にできることは何なのでしょう。

☎ 子育て健康課 ☎84-0327

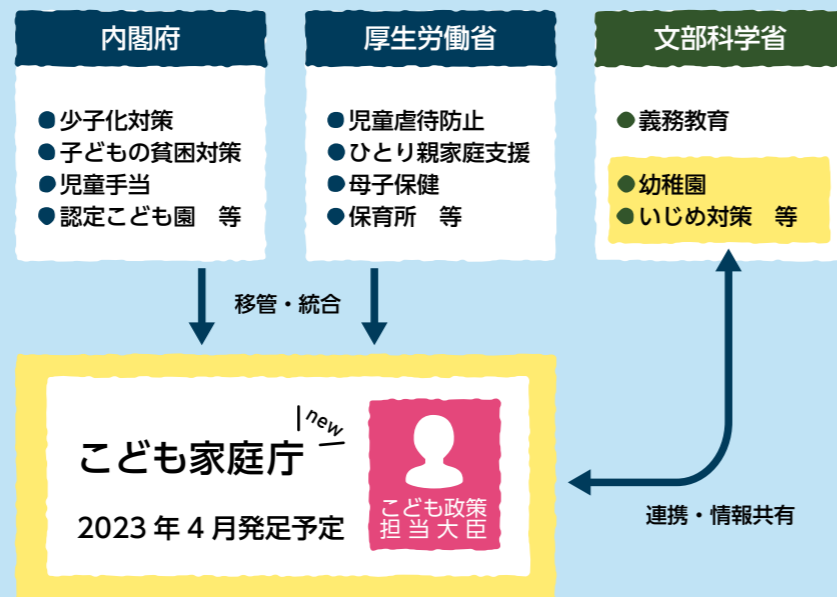


「地域」と子育て
核家族化の進展や個人の考え方の変化によって、地域でのつながりが薄くなったと言われて久しい今日。子育てをめぐる状況に関しても、例外ではありません。
これは、子育て中の世帯が地域とのつながりが必要となくなってきたわけではありませぬ。内閣府の調査によると、7割の保護者が「地域での子育て支援は重要」と考えていることが判りました。
問題は、今まで自然と存在していた、子育て世帯と地域とを結びつける場や仕組みが、うまく機能しなくなってきたことなのではないでしょうか。
「子育て」と「地域」が結びつくことは、育児への負担感の軽減や子どもの成長に役立つだけではなく、子どもの力で地域を元気にするきっかけにもなります。
地域の力を子育て支援に生かすために、行政が何をすべきなのか、地域がどうあるべきなのかを考えつつ、すでに動き出している人々の姿を追いました。

2023年創設、「こども家庭庁」って何？

子育て政策の司令塔に

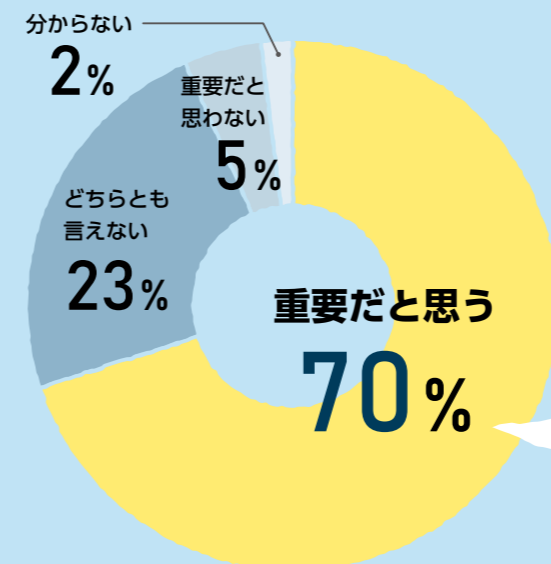
来年4月、子どもとその保護者を取り巻く問題の対策を担う「こども家庭庁」が発足します。これまでの組織の縦割りを解消することで、支援から取りこぼされていた子どもを生じさせないようにすることを大きな目的としています。



地域の重要性が今まで以上に大きく国は、こども家庭庁の設置を待たず、「子どもの居場所づくり」を重要課題として、その調査・研究を実施中です。すべての子どもが自己肯定感を持ちながら、社会で生き抜く力を得るためにも、地域で子どもを受け入れることの重要性が増しています。

地域での子育て支援って、どう思う？

18歳以下の子どもを持つ、20～50代の保護者3,000人に聞きました。



Q. 地域での子育て支援で重要だと思うことは？

- 子育ての悩みを気軽に相談できる相手や場所があること **52%**
- 子どもの防犯のために声かけや見守りをしてくれる人がいること **45%**
- 子どもと一緒に遊ぶ人や場所があること **40%**

※回答の一部。複数回答可

※内閣府「家族と地域における子育てに関する意識調査」より作成